



小田原市立芦子小学校学校だより

あしこだより

令和8年度6月号
発行者:石井 美佐子



R8 児童会スローガン「あいさつとやさしさあふれる 成長し続ける芦子小にしよう」

6月も下旬に入りましたが、昨年度にくらべると比較的過ごしやすい日が続いているように思います。6月16日からはプールでの学習が始まりましたが、ほとんどの学年で予定通り実施することができています。安全に実施できるよう努めていきます。毎年多数のスクールボランティアさんにもご協力いただき改めて感謝申し上げます。

6月11日(木)には第1回学校運営協議会を開催しました。委員の皆様からは「校内が明るい雰囲気でした」「子ども達がよく挨拶してくれました」というお声をいただきました。廊下に掲示している図工の作品をご覧になり、その発想の豊かさに感心されている委員の方も多かったです。私も常々そう思っています。



委員である連合自治会長さんに
質問する4年生

今年度もインクルーシブ週間を設定しました

本校では、学校経営の重点的な取組の一つに「全ての教育活動を通した人権教育・インクルーシブ教育」を掲げています。大人も子どもも「インクルーシブな社会」について一緒に考えていこうと、昨年度から6月の1週間をインクルーシブ週間として位置付けました。今年は6月8日(月)からの1週間を設定し、朝会や道徳などの学習の時間、絵本の読み聞かせなど、様々なアプローチで取り組みました。

6月13日には、日本財団パラスポーツサポートセンター主催の「あすチャレ!ジュニアアカデミー」を6年生の児童を対象に、小田原市社会福祉協議会主催の出前授業を5年生の児童を対象に実施しました。たくさんの保護者の皆様も子ども達と一緒に参加してくださいました。

6年生で実施した「あすチャレ!ジュニアアカデミー」では、バンクーバー2010冬季パラリンピック パラアイスホッケーの銀メダリストである 馬島 誠 さん(まこっちゃん)を講師にお迎えしました。馬島講師のこれまでの経験を伺うだけでなく、「障がいのある人と一緒に鬼ごっこを楽しむにはどうしたらよいか」というテーマについて、子ども達が話し合い、鬼ごっこのルールを考えて、実際に一緒に遊びました。

馬島講師からは、「できない」を「できる」に変える工夫や、違いを認め合いながら、ともに楽しむことの大切さについてのお話がありました。また、「他喜力(たきりよく)」「顔晴る(がんばる)」という言葉や「仲間や相手のことをちゃんと考える」ことが、自分達みんなが楽しめる秘訣だと教わりました。6年生は、周囲の人を笑顔にするために何ができるのか、そして感謝する気持ちの大切さについて学んだことと思います。「仲間や大切な人のためだったらガンバレそうな気がする。」という子もいました。



6年生は、周囲の人を笑顔にするために何ができるのか、そして感謝する気持ちの大切さについて学んだことと思います。「仲間や大切な人のためだったらガンバレそうな気がする。」という子もいました。

5年生は、小田原市視覚障害者福祉会の、山本 ^{たかよ}財代 さん、管 瑛梨 さん を講師にお迎えしました。山本さんは高校の教員で3年生を担当されていた時に視力を失ったそうです。周囲の力を借りて卒業生を送りだせたというお話がありました。管さんはお子さんが2歳と4歳のときに病

気で視覚を失ったそうです。子育て真っ最中で、ショックを受けている暇もなかったと話されていました。

最近ではスマートフォンに視覚情報を補うボイスオーバー機能という便利な機能があること、サウンドテーブルテニス（視覚障がいがある方でも楽しめる卓球）というスポーツを楽しんでいることなど、日常生活についてのお話も伺いました。「いくら便利な機能や道具があっても、やっぱり頼りになるのは人とのコミュニケーション。だから皆さんには困っている人がいたら、勇気をもって『大丈夫？』と声をかけてほしい。」というお2人の言葉が、子ども達には印象に残ったようでした。



教室に戻ってから、お2人にお礼を言いたいという話が出たそうです。その際、これまでは自分達の感想やお礼を、相手の方にお手紙や寄せ書きで伝えてきたけれど、山本さんと菅さんにはどうやって伝えようか、という話になったそうです。実際に講師のお2人と出会い、「来ていただいたお礼を伝えたい」と思ったことで、その方の不自由さや困っていることを自分事として考えることになったと思います。6年生の中には「相手のことを考えてと簡単に言うけれど、難しいことだとも感じた」という感想もありましたが、たった数時間でしたが、今日の出会ってからそれぞれがいろいろなことを感じたものと思っています。

5・6年生の感想を、まとめた形になりますが紹介します。

- ★体に不自由なところがあっても、何もできないわけではなく、たくさんの工夫をして生活したり運動したりしていることがわかった。
- ★障がいのある方は、生まれたときからそうかと思っていたけれど、大人になって障がいが出ることもあることを知った。
- ★障がいがある人、ない人にかかわらず何か困っている人がいたら、周りが助けていく。
- ★困っている人がいたら、迷わず声をかけたい。
- ★これまでは、自分は関係ないと思っていたけれど、障がいがある人もない人も、困っていたら助けようと思う。
- ★前までは大変そうだなと他人事のように思っていたけれど、自分に何ができるだろうと考えようと思えるようになった。
- ★急に目が見えなくなってしまうこともあるし、目が見えるのは当たり前のことではないし、見えることに感謝しないといけないと改めて思った。人それぞれに苦手なことや得意なことを分かち合いながらたくさんの人と助け合うことが大切と言うことがわかった。

実際に様々な立場の方に会って、お話を聞いて、一緒に考えたり遊んだりすることで、子ども達の世界が広がっていくと改めて思いました。子ども達には、困っている人に会った時に「自分にできることをしよう」と思い、そして行動にうつせる人になってほしいと思います。そして私自身もそんな人になりたいと、そうできるよう努めたいと改めて思う一日になりました。誰しもが、誰かの助けがないと生きていくことはできないのですから。お互いの力が必要なのです。

最後に、6年生の「あすチャレ宣言！」を紹介します。

- みんなに感謝！「ありがとう」と言う。
- 難しいことも工夫して自分からチャレンジ！
- なんでもネガティブに考えないでポジティブに考える！！
- できないことをできるようにする方法を見つけてみる。
- 明日は工夫して楽しもう。
- みんなに笑顔を届ける！
- 私は、何に対しても、勝手に決めつけることはしない！！
- 障がいがある人も障がいがない人も、一緒に楽しめる社会を、自分から応援できるようにしたい！



誰もが安心して暮らせるよう、様々なマークがあることを5年生は学習しました。